

2023年度

明治学院共通科目ガイダンス ハンドブック

【全学科用】



* 記載内容に変更が生じる場合は次のWEBページに掲載します。随時、チェックしてください。
明治学院大学共通科目ガイダンス動画および本ハンドブックのPDF版もおいてあります。



明治学院大学 教養教育センター

目次

1. 大学カリキュラムの基礎知識	1
2. 「明治学院共通科目」について	1
(1) 人材養成上の目的・教育目標	1
(2) 期待される学修成果	1
(3) 教育課程の編成および実施に関する方針	2
3. 「仮想コース」について	4
(1) 「持続可能な社会コース」	4
(2) 「アジア地域研究入門コース」	5
(3) 「Do for Others とボランティア・市民活動コース」	6
(4) 「多文化共生コース」	7
4. 「アカデミック・ライティング演習1」の履修について	8
I. 授業内容	8
II. 履修手続き	9
履修登録上の注意点	10
5. 「ボランティア・市民活動実習プログラム」の履修について	13
6. 秋学期の「基督教の基礎B」の履修について	14
7. 「AI・データサイエンス系科目群」の履修について	15
8. 時間割作成の手順について	16
9. 明治学院共通科目の履修登録について	16
10. 時間割作成上の注意事項	17

1. 大学カリキュラムの基礎知識

明治学院大学のカリキュラムは、教養教育センターが中心となって提供する科目群、学部・学科が提供する科目群、教職課程が提供する科目群から成り立っています。

(1) 明治学院共通科目

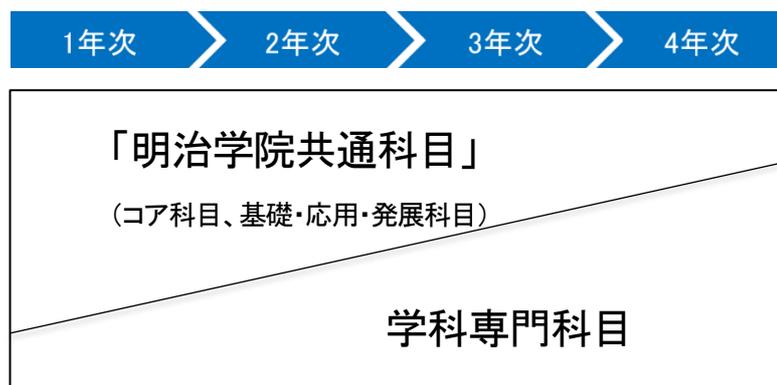
教養教育センターと学部・学科が協力して、全学部・全学科生を対象に提供している科目群

(2) 学科科目・学部共通科目

各学部・学科が、主としてそこに所属する学部・学科生に提供している科目群

(3) 教職科目

教職課程が、教育職員免許状の取得を希望する学生に提供している科目群



2. 「明治学院共通科目」について

(1) 人材養成上の目的・教育目標

明治学院共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる市民的教養を有する人材の養成を目的としています。そしてその実現のために、言語系科目と諸領域科目の教育が連携し、多様な思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進しています。

言語系科目の教育においては、コミュニケーション能力の向上と言語を育んできた自他の文化への理解を深め、自律的な学修態度を身につけることを教育目標としています。また、諸領域科目の教育においては、専門的知見の修得を通して、問題を的確に理解するための読解力や分析力、問題解決のための多面的な思考力を身につけることを教育目標とします。

(2) 期待される学修成果

学生は、所定の単位を修得することにより、次の態度、知識、能力を身につけることが期待できます。

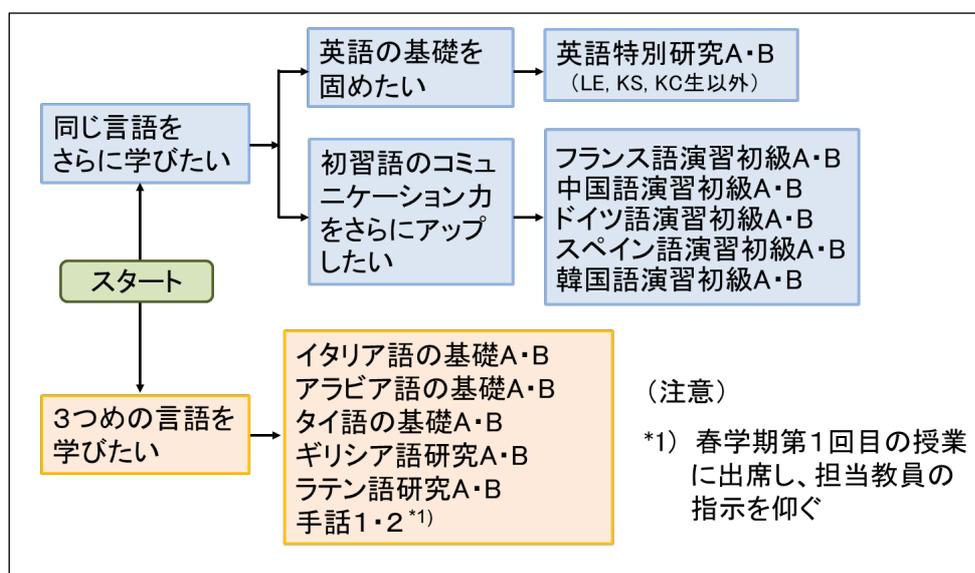
- 1) 建学の精神を理解し、多様な価値観を尊重しつつ、社会参加を通して他者への貢献を志向する態度
- 2) 幅広い学問分野の基礎知識を有し、現代社会が抱える諸問題に対して多面的に捉え、的確に価値の判断を行う能力
- 3) 自ら発見した課題について、幅広い知見に基づいて、その解決策を適正かつ明確に提示する能力
- 4) 他者とのコミュニケーションに必要な能力を身につけ、生涯にわたってそれを伸展させるための自律的学修をつづける態度

(3) 教育課程の編成および実施に関する方針

明治学院共通科目は「言語系科目群」と「諸領域科目群」から構成されています。また、それぞれの科目群において、「基礎・応用・発展」のレベルを設定することにより、順次的・体系的な学修を促進できるように科目を編成しています。

1) 言語系科目群：

英語・フランス語・中国語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語・韓国語・イタリア語・アラビア語・タイ語・ギリシア語・ラテン語・日本語（留学生のみ）・手話を学ぶことができます。各言語によるコミュニケーション能力の向上と、その言語を育んできた文化を理解するための科目群です。基礎から応用段階まで各言語の自律的学修が可能となるようにカリキュラムが組まれています。上級者向けの発展的科目や異文化理解・多文化理解のための科目も多く設置されています。



1年次に必修以外の言語系科目を履修するためのフローチャート

2) 諸領域科目群：

人文科学系、社会科学系、自然科学系、情報処理系、健康・スポーツ科学系、総合教育系、AI・データサイエンス系の各科目群および特別学科科目から構成されています。演習形式の発展的科目や交換留学生と一緒に英語で学ぶ科目※などもあり、現代世界が直面している諸問題に対処するための総合的教養を身につけることができる様々な科目が設置されています。

※交換留学生と一緒に英語で学ぶ科目

- ・ MGINT201～206 Japanese Arts and Culture 1～6
- ・ MGINT211～216 Japanese History 1～6
- ・ MGINT221～226 Japanese Society 1～6
- ・ MGINT231～234 Multilingualism and Multiculturalism 1～4
- ・ MGINT241～244 Current Issues 1～4

これらの科目の履修を希望する学生には一定以上の英語力が必要になりますが、横浜で開講される科目は1年次生でも履修できるように工夫されています。履修を希望する学生は各授業のシラバスを確認するとともに、ポートヘボン等で行われる履修者募集のお知らせにも注意してください。

■明治学院共通科目 開講科目一覧

必修科目・選択必修科目	基礎科目		応用科目	発展科目
	コア科目	キリスト教の基礎A・B		
言語系科目	情報処理系科目	コンピュータリテラシー1・2		
	英語	英語コミュニケーション1A・1B・2A・2B		
	フランス語	フランス語1A・1B・2A・2B	フランス語3A・3B・4A・4B	
	中国語	中国語1A・1B・2A・2B	中国語3A・3B・4A・4B	
	ドイツ語	ドイツ語1A・1B・2A・2B	ドイツ語3A・3B・4A・4B	
	スペイン語	スペイン語1A・1B・2A・2B	スペイン語3A・3B・4A・4B	
	ロシア語	ロシア語1A・1B・2A・2B	ロシア語3A・3B・4A・4B	
	韓国語	韓国語1A・1B・2A・2B	韓国語3A・3B・4A・4B	
	日本語	日本語1A・1B・2A・2B	日本語3A・3B・4A・4B	
	英語		英語特別研究A・B / 英語研究1A・1B・2A・2B・3A・3B	
	フランス語	フランス語演習初級A・B	フランス語研究1A・1B・2A・2B / フランス語演習中級A・B	フランス語研究3A・3B・4A・4B
中国語	中国語演習初級A・B	中国語研究1A・1B・2A・2B / 中国語演習中級A・B	中国語研究3A・3B・4A・4B	
ドイツ語	ドイツ語演習初級A・B	ドイツ語研究1A・1B・2A・2B / ドイツ語演習中級A・B	ドイツ語研究3A・3B・4A・4B	
スペイン語	スペイン語演習初級A・B	スペイン語研究1A・1B・2A・2B / スペイン語演習中級A・B	スペイン語研究3A・3B・4A・4B	
ロシア語		ロシア語研究1A・1B・2A・2B	ロシア語研究3A・3B・4A・4B	
韓国語	韓国語演習初級A・B	韓国語研究1A・1B・2A・2B / 韓国語演習中級A・B	韓国語研究3A・3B・4A・4B	
言語の基礎	イタリア語の基礎A・B / アラビア語の基礎A・B / タイ語の基礎A・B			
西洋古典語研究	ギリシア語研究A・B / ラテン語研究A・B			
手話	手話1	手話2		
外国文化論科目	ヨーロッパ言語圏の文化入門1~6 / ヨーロッパ言語圏の文化各論1~6 / アジア言語圏の文化入門1~4 / アジア言語圏の文化各論1~4			
留学生関連科目	集中日本語1A・1B・2A・2B / 実践日本語初級A・B	日本語研究1A・1B・2A・2B・3A・3B / 集中日本語3A・3B・4A・4B / 実践日本語中級SA・SB・WA・WB / 実践日本語上級SA・SB・WA・WB	集中日本語5A・5B	
選抜科目	人文科学系科目群	哲学史1・2 / 倫理学入門1・2 / 論理学概論1・2 / 言語科学の基礎1~4 / 心理学入門1・2 / 教育学の基礎1・2 / 芸術学の基礎1・2 / 日本文学概論1・2 / 日本文化論入門1~4	聖書の世界1~4 / キリスト教の思想と文化1~4 / 宗教史1~4 / 現代社会とキリスト教1~4 / 哲学各論1・2 / 科学思想1・2 / 倫理学各論1~4 / 伝統論理学1・2 / 現代論理学1・2 / 心理学各論1~4 / 芸術学各論1~6 / 日本文学講義1~4 / 日本文化特論1・2	
	社会科学系科目群	法学1・2 / 政治学1・2 / 社会学理論の基礎1・2 / 文化とメディアの社会学入門1・2 / 生命とアイデンティティの社会学入門1・2 / 環境とコミュニティの社会学入門1・2 / 社会福祉学1・2 / 経済学1・2 / 統計学1~4 / 人文地理学入門1・2 / 文化人類学入門1・2 / 社会科学概論1~4	歴史学1~6 / 歴史学の世界1・2 / 人文地理学1~6 / 文化人類学各論1・2	
	自然科学系科目群	数学入門1・2 / 数学1~4 / 物理学入門1~3 / 物理学方法論A・B / 化学入門1・2 / 化学方法論A・B / 生物学入門1・2 / 生物学方法論A・B / 生命科学入門1・2 / 生命科学方法論A・B	数学特論1・2 / 現代の物理学1~3 / 物理学特論 / 現代の化学1~4 / 現代の生物学1~5 / 生物学特論 / 生命科学各論1~3 / 生命科学特論	
	情報処理系科目群		コンピュータリテラシー研究1A・1B・2A・2B / 情報科学1~4	
	健康・スポーツ科学系科目群	健康科学概論1・2 / スポーツ科学概論1・2 / スポーツ社会学概論1・2 / スポーツ方法学1~4 / シーズンスポーツ研究1A・2A・3A	トレーニング科学理論・実習1・2 / バイオメカニクス理論・実習1・2 / シーズンスポーツ研究1B・2B・3B	
諸領域科目	総合教育系科目群	現代世界と人間1~6 / 現代社会と教養1・2 / 多文化共生入門1・2 / グローバルシテズンシップ入門1・2 / 明治学院研究1 / 現代平和研究1~3 / 環境学各論1~4 / サステイナビリティ学1~4 / ボランティア学入門1~4 / グローバル社会と市民活動入門1・2 / ボランティア・市民活動論(国内)1A / ボランティア・市民活動論(海外)2A / アカデミック・ライティングの基礎 / ライフデザイン1 / キャリアデザイン1 / 日本の社会と文化1A・1B・2A・2B・3A・3B / 異文化コミュニケーション研究A・B / オルガン実習1	多文化共生各論1~4 / グローバルシテズンシップ各論1~4 / 明治学院研究2・3 / グローバル社会と市民活動1・2 / ボランティア・市民活動論(国内)1B / ボランティア・市民活動論(海外)2B / ボランティア・市民活動実習(国内) / ボランティア・市民活動実習(海外) / アカデミック・ライティング演習1・2 / ライフデザイン2~4 / キャリアデザイン2 / スタディーツアー1~4 / Japanese Arts and Culture1~6 / Japanese History 1~6 / Japanese Society 1~6 / Multilingualism and Multiculturalism 1~4 / Current Issues 1~4 / オルガン実習2	ボランティア・市民活動研究(国内) / ボランティア・市民活動研究(海外) / アジア・日本研究A・B / ヨーロッパ文化圏研究A・B / 現代科学研究A・B / 現代社会研究A・B
	AI・データサイエンス系科目群	AI・データサイエンス入門		
	特別学科学科目	社会学概論A・B / 内なる国際化論A・B / ボランティア実践指導		
	短期・中期留学認定科目	ヨーロッパ研究(短期留学) / イギリス研究(短期留学) / スペイン研究(短期留学) / ドイツ研究(短期留学) / フランス研究(短期留学) / アメリカ研究(短期留学) / カナダ研究(短期留学) / 韓国研究(短期留学) / 中国研究(短期留学) / オセアニア研究(短期留学) / 東南アジア研究(短期留学) / アメリカ研究(中期留学) 基礎1~6	アメリカ研究(中期留学) 応用1~6	アメリカ研究(中期留学) 発展1~6
海外インターンシップ関連科目	海外インターンシップ課題研究A・B	海外インターンシップA・B		

※必修科目や履修可能な科目は所属学科によって異なります。各自「履修要項」で確認してください。

3. 「仮想コース」について

明治学院共通科目は、自身の興味・関心にしたがって所定のルールの範囲内で自由に履修することができますが、関連する科目を有機的に履修することにより、学修に幅や深みをもたせることができます。その **理想的な履修の「モデル」**として、各テーマに沿った「仮想コース」（「持続可能な社会コース」・「アジア地域研究入門コース」・「Do for Others とボランティア・市民活動コース」・「多文化共生コース」）が設定されています。なお、**この4つの「仮想コース」の中から何か1つを必ず選ばなければならない、ということではありません。**

(1) 「持続可能な社会コース」

1. コースのねらい

環境問題の重要性について認識している人は多いと思います。中学校や高等学校の授業で、地球環境の問題について学んできたかもしれません。では、「持続可能な社会」というとき、考えるべき対象は環境問題だけでよいのでしょうか。グローバル化の進展に伴って、社会全般の持続可能性が問われるようになってきました。環境問題はもちろんのこと、食料、教育、健康といった、社会生活全般にわたる持続可能性が試されているのです。こうした諸問題に取り組むには、自らが地球市民であるという視点に立ち、持続可能な社会を形成するために何をすべきかを考えることが求められています。「持続可能な社会コース」では、次世代を担うみなさん自身が、これまで誰も直面したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身につけることを目標とします。

2. 当該コース科目群を構成する主要科目

- ・サステナビリティ学1・2 ・グローバルシチズンシップ入門1・2
- ・グローバルシチズンシップ各論1・2・3・4 ・環境学各論1・2 ・生命科学各論1・2
- ・健康科学概論1・2 ・スポーツ科学概論1・2 ・現代科学研究A・B

3. コース科目群のカリキュラム・マップ

「サステナビリティ学1・2」を中心に、配当年次に合わせていつでも履修可能

	基礎	応用	発展
自然科学系 科目群		生命科学各論1・2	
健康・スポーツ科学系 科目群	健康科学概論1・2 スポーツ科学概論1・2 スポーツ社会学概論1・2 スポーツ方法学1・2・3・4	トレーニング科学理論・実習 1・2 バイオメカニクス理論・実習 1・2	
総合教育系 科目群	サステナビリティ学1・2 グローバルシチズンシップ 入門1・2 環境学各論1・2	グローバルシチズンシップ 各論1・2・3・4	現代科学研究A・B 現代社会研究A・B

(2) 「アジア地域研究入門コース」

1. コースのねらい

「アジア地域研究入門コース」は、アジアに生きる市民を育てるための試みです。アジアを学ぶための授業を中心としながら、実際に国内外のアジアに触れるプログラムも用意されています。アジアに属する日本社会もまた学びの対象となります。

日本の社会には海外に出自を持つたくさんの人々がいます。私たちの大学にも多くのアジア出身留学生がいます。日本人はすでにアジアの人々とともに生活しているのに、相互の理解は十分に深まっているとは言えません。日本人もまたアジアの一員にほかなりませんが、アジア人であるという意識は案外希薄です。このコースを取ることによって、ひとりでも多くの明学生が、アジアをよく知り、アジアの豊かな文化的多様性を理解し、相互の違いを認め合い共に歩むことのできる市民となってほしいと願っています。

2. 何をどんなふうに履修すればいいの？

下記の表は、アジアを学ぶための科目を目的別、レベル別に配置した「カリキュラム・マップ」です。ぜひ時間割を組む際の参考にしてください。

	基礎	応用	発展
アジアのことは学ぶ	中国語 1・2 中国語演習初級 韓国語 1・2 韓国語演習初級 日本語 1・2	中国語 3・4, 中国語研究 1・2 中国語演習中級 韓国語 3・4, 韓国語研究 1・2 韓国語演習中級 日本語研究 1～3	中国語研究 3・4 韓国語研究 3・4
多様なアジアを知る	アジア言語圏の文化入門 キリスト教の基礎 日本文学概論, 日本文化論入門 明治学院研究 1 アジア言語圏の文化各論	キリスト教の思想と文化, 宗教史 現代社会とキリスト教 日本文学講読, 日本文化論特論 歴史学, 歴史学の世界, 人文地理学 明治学院研究 2・3	アジア・日本研究
アジアのドアを開ける	多文化共生入門 ボランティア学入門, グローバル社会と市民活動入門, ボランティア・市民活動論 1A・2A 異文化コミュニケーション研究 日本の社会と文化	多文化共生各論, グローバル社会と市民活動, ボランティア・市民活動論 1B・2B	ボランティア・市民活動研究 (国内・海外)
アジアに立つ	中国研究 (短期留学) 韓国研究 (短期留学)	スタディーツアー1・4 ボランティア・市民活動実習 (国内・海外)	

(3) 「Do for Others とボランティア・市民活動コース」

1. コースのねらい

本コースの目標は、明治学院大学の教育の理念「Do for Others」（他者への貢献）について体系的に理解することにあります。そのために、①建学以来、本学の関係者が取り組んできた多方面にわたる社会貢献活動の精神（ボランティア・スピリッツ）を、キリスト教や明治学院の歴史から学びます。加えて、学生が現代社会の課題を主体的に解決する能力を習得するため、②学際的な視点で現代の社会課題についての構造的な理解を深めるとともに、③ボランティアや市民活動のなかで生まれてきた思想や手法を実践、理論の両面で学びます。

2. 当該コース科目群を構成する諸科目

①キリスト教と明治学院の歴史への視点を学ぶ

- ・キリスト教の基礎 A・B
- ・キリスト教の思想と文化 1～4
- ・宗教史 1～4
- ・明治学院研究 1～3
- ・現代社会とキリスト教 1～4

②現代の社会課題について構造的に学ぶ

- ・環境とコミュニティの社会学入門 1～2
- ・社会福祉学 1～2
- ・歴史学の世界 1～2
- ・歴史学 1～4
- ・人文地理学入門 1～2
- ・人文地理学 1～6
- ・文化人類学入門 1～2
- ・文化人類学各論 1～2
- ・多文化共生入門 1～2
- ・多文化共生各論 1～4
- ・現代平和研究 1～3
- ・現代世界と人間 1～6

③ボランティアや市民活動のなかで生まれてきた思想や実践手法を学ぶ

- ・ボランティア学入門 1～4
- ・グローバル社会と市民活動入門 1～2
- ・グローバル社会と市民活動 1～2
- ・ボランティア・市民活動研究

④【ボランティア・市民活動実習プログラム】

- ・ボランティア・市民活動論（国内）1A
- ・ボランティア・市民活動実習（国内）
- ・ボランティア・市民活動論（国内）1B

※以上の3科目は、春学期に理論を学び、夏休みに2週間の実習を各地の市民活動団体で行い、秋学期に実践成果をプレゼンテーションや報告書にまとめる授業です。

(4) 「多文化共生コース」

1. コースのねらい

「外国語」や「外国人」という言葉を聞いたとき、みなさんがまず思い浮かべる対象は何でしょうか。もしかすると「英語」であり、また「アメリカ人」や「イギリス人」であるかもしれません。現在、日本に中長期的に滞在する在留外国人、つまり旅行者ではなく、生活者として日本で暮らす外国人は、約296万2千人です（2022年6月末の時点）。このうち、「英語」を話す人や、「アメリカ人」や「イギリス人」の割合がどれくらいなのか考えたことはありますか。また、約296万2千人というのは、日本の総人口の約2.4%に相当しますが、この割合は多いでしょうか、それとも少ないでしょうか。ちなみに、名古屋市の人口が約232万人、大阪市の人口が約276万人です（それぞれ2023年1月1日現在の推計）。さらに、この約296万2千人に、日本国籍所持者や無国籍者を含めた外国につながる人たちを加えると、数字はさらに大きくなるでしょう。少子高齢化が進む日本社会においては、こうした外国につながる人たちとの共生が喫緊の課題です。多文化共生コースでは、少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を身につけることを目標としています。

2. 当該コース科目群を構成する主要科目

- ・多文化共生入門1・2
- ・多文化共生各論1・2・3・4
- ・グローバルシチズンシップ入門1・2
- ・グローバルシチズンシップ各論1・2・3・4
- ・サステイナビリティ学1・2
- ・グローバル社会と市民活動入門1・2
- ・現代社会研究A・B
- ・必修外国語に加え、3つ目の外国語（あるいはそれ以上）となる外国語科目

3. コース科目群のカリキュラム・マップ

「多文化共生入門／各論」を中心に、配当年次に合わせていつでも履修可能

	基礎	応用	発展
言語系科目群	必修外国語に加え、3つ目の外国語（あるいはそれ以上）となる外国語科目		
総合教育系 科目群	多文化共生入門1・2 グローバルシチズンシップ入門1・2 サステイナビリティ学1・2 グローバル社会と市民活動入門1・2	多文化共生各論1・2・3・4 グローバルシチズンシップ 各論1・2・3・4	現代社会研究A・B

4. 「アカデミック・ライティング演習1」の履修について

I. 授業内容

「アカデミック・ライティング演習1」は、大学でのレポートや論文の執筆に必要な基本的技術を身につけるための、1学期完結のコースです。定員15名の少人数指導で、ライティング課題の添削を軸に、技術の確実な定着を目指します。この科目で学ぶ思考の方法は問題発見に役立ち、ものごとを考える際、間違いを生じにくく、主張の説得力を高めるため、卒業後の仕事や社会生活にも広く役立ちます。

A ゴール

学問的な文章を書く上で大切なのは、根拠を示して問いにこたえる「論証」です。この科目では、全新入生に配付する教科書『アカデミック・ライティング・ハンドブック』を用い、文献資料や調査データを根拠とする論証のパターンを学び、主に次のスキルにつき、大学生として恥ずかしくないレベルを目指します。

- 1 簡潔な主張をもつ段落を単位とする、論文の書き進め方 (paragraph writing)
- 2 既存の研究を自分の言葉と区別し、効果的に示す作法 (引用と出典表示)
- 3 様々なデータベースを用い、情報を集める方法 (資料検索)
- 4 自分の文章を批判的に手直しし、ムダなく読みやすい表現にする方法 (推敲)

B 授業

時限内の作業(ディスカッション等を含む)を通して資料を消化し、レポートで取りあげる問題のを見つけ方、議論の組み立て方を身につけます。全員が同じ配付資料を用い、一学期間ひとつのテーマを論じます。以下は授業回数を目やすです。

- | | |
|---------------------------|----|
| 1 スキル(上記Aの1~4)の理解のための実習 | 7回 |
| 2 テーマや資料を理解し、消化するための実習 | 4回 |
| 3 個別指導(コンサルテーション)を中心とする指導 | 3回 |
| 4 オリエンテーション、そのほか | 1回 |

C 課題

上にあげた4つのスキルを身につけるため、宿題として(書き直しをふくめ)平均2週に1度ほどの頻度でレポートを提出し、うち4回ほど添削指導をうけます。500字程度からはじめ、「ファイナル・レポート」(4,000字程度)を書くまでに、テーマをよく理解し、長めのレポートが書けるよう計画されています。

平均的履修者は提出物ひとつあたり執筆に平均4~5時間かけ、それに見合う実力を得たと感じています。ただし、添削指導のあるほかの科目の負担やアルバイト、課外活動なども慎重に考慮した上で履修して下さい。

さらに初心者向け — 「アカデミック・ライティングの基礎」

確実にスキルを身につけたい場合、添削指導のある「アカデミック・ライティング演習1」の履修を薦めますが、より初歩的な知識を授業で得たければ、まず添削指導なしで学ぶ定員75名の「アカデミック・ライティングの基礎」を履修してみてください。添削に代え、小テストでスキルの理解をはかります。なお、「基礎」の履修には履修期間中の仮登録が必要です(希望者多数の場合は初回授業で抽選)。

「基礎」「演習1」をなるべく早期(遅くとも2年次末まで)に履修し、大学生に期待されるレポートのスキルを身につけるよう、強く薦めます。なお、両方履修したい場合は、必ず「基礎」から履修してください。「基礎」は、「演習1」を履修した後は、あるいは「演習1」と同じ学期には履修できません。

II. 履修手続き

1. 事前申込み・抽選制度

「アカデミック・ライティング演習1」の履修希望者は、4月4日（火）の17時までにオンラインで「事前申込みフォーム」を提出し、抽選を受けてください。くわしくは右のQRコードより、webページ「[【アカデミック・ライティング科目】履修申込の方法と履修相談（2023）](#)」で確認できます（情報の更新は「Port Hepburn」でも告知します）。



2. 「事前申込みフォーム」

「事前申込みフォーム」には、指示のとおり氏名、学籍番号を記入し、履修希望曜時限（第1希望および第2希望）を選択します。個々に確認・訂正する時間がないため、誤記のあるものは失格とします。

履修希望曜時限を選ぶ際、各学科が指定する必修科目と重複する曜時限（または必修科目が今後割り当てられる可能性のある曜時限）には、絶対に申し込んではいけません。各自、手元の時間割にもとづき、後掲する「要注意曜時限リスト」もチェックした上で、記入してください。

この科目では、いったん登録すると登録期間B、Cや履修中止期間における履修取消、変更、履修中止などは認めず、出席・提出物ゼロでも、成績証明書に「D」（不合格）評価がつき、GPAに反映されます。

以下の8つの曜時限枠に開講します。この中からひとつを選択して申し込んでください。

	月曜4限	月曜5限	木曜4限	木曜5限
春学期	3クラス（計45名）	3クラス（計45名）	2クラス（計30名）	3クラス（計45名）
秋学期	4クラス（計60名）	4クラス（計60名）	3クラス（計45名）	3クラス（計45名）

3. 抽選結果の発表と履修登録

当選者の学籍番号とクラス分けは、春・秋学期クラスとも4月5日（水）の18時頃までに「Port Hepburn」にて発表します。「アカデミック・ライティング演習1」の履修登録は教務課が代行するので、当選者自身による「Web履修登録」は不要です（秋学期分は秋学期開始直前に登録されます）。各自指定されたクラスの初回授業を必ず受けてください。

なお、「アカデミック・ライティングの基礎」は履修登録期間中の仮登録が必要です。「基礎」を履修するかは「演習1」の抽選結果を見てからでも判断できます（一部曜時限の仮登録期限は当選発表直後）。

【参考】「アカデミック・ライティングの基礎」（75名定員）の開講曜時限

春学期：月曜4・5限、火曜3・5限、木曜4・5限、金曜4・5限

秋学期：月曜4・5限、火曜3・5限、木曜4限

※上記各曜時限に1クラス開講（春学期木曜4限のみ2クラス開講）

4. 「アカデミック・ライティング科目」履修相談

この科目の履修に関し不明点がある場合、まずは後掲の「よくある質問」を精読してください。なお疑問や不安が残る場合は、履修相談（4月4日・横浜キャンパス・対面）を利用してください（4月1～4日までオンラインでの質問も受けつけます）。詳細は特設webページ（上掲QRコードよりアクセス）で告知します。なお、必修科目などの時間割は各自「Port Hepburn」の「履修登録確認表」で確認してください。

【警告】この科目に限らず、大学ではウェブ上の情報を含め、他人の文章やアイデアを自分の名前で発表すること（剽窃）は、不正行為とみなされ、学生の身分にかかわる処分の対象となります。「アカデミック・ライティング演習1」では不正行為の防止のため、自身のレポートの取り扱いなどについて、何が許され、何が許されないかの規準を示し、これに従うことを初回授業で宣誓してもらいます。

履修登録上の注意点

学科別要注意曜時限リスト（新入生）

		LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JG	JP	KS	KC	PS	PE
春	月4		▲	△	▲	×	▲			▲	▲	×	△	▲	▲		
	月5				△		▲			×	▲	△	△	▲			×
	木4			△	▲	△	▲	×	▲	▲	▲	△	△	▲	▲	▲	×
	木5	▲	×		▲	△			▲		△	△	▲	▲		▲	
秋	月4		▲	△	▲	×	▲		△	×	▲	×	▲	▲		△	
	月5				△		▲		△		▲	▲	△				
	木4			△	▲	△	▲	▲	▲	×	△	△	△	▲		△	△
	木5	▲	×		▲	△			△		△	△	△				

【凡例】

以下の各マークのある曜時限に「アカデミック・ライティング演習 1」の履修を申込み場合：

「×」 学科の全1年次生が履修すべき必修科目などがあるので申込みできません

「▲」 (学籍番号によって) 学科の必修科目など、履修すべき科目があるので学科の「履修の手引き」や各自の時間割を確認してから申込みこと

「△」 選択必修など各学科が1年次の履修を推奨する科目が履修できなくなる可能性があります

記号の説明 必修科目や選択必修科目では、複数の開講曜時限の中から、学籍番号などにより一つを割り当てられる場合も多く、「▲」「△」の曜時限に、学科の必修科目・選択必修科目などが入っていない学生もいます。所属学科から指定された各自の時間割をよく確認してください。なお、各自の時間割の状況は「Port Hepburn」の「履修登録確認表」で確認できます。

【履修登録上の注意】

以下の可能性（とくに不利益）をよく理解した上で、事前申込みをしてください。

1. 「アカデミック・ライティング演習 1」では、学生の自己都合による履修中止や変更は認められません。十分確認せずに申込みと、同じ曜時限のほかの科目が履修できなくなるので注意してください。
2. 各学科で1年次に必ず履修すべき科目に指定されている科目を履修しないと、4年間で卒業できなくなる可能性があります。
3. 「アカデミック・ライティング演習 1」では、一切出席しなくても、「N」（評価不能）ではなく「D」（落第）評価が付きまます。
4. 「アカデミック・ライティング演習 1」を履修登録すると、履修する学期とそれ以降の学期に、「アカデミック・ライティングの基礎」を履修することはできなくなります。
5. 「英語コミュニケーション 1A、B」「同 2A、B」の履修時限は、事前申込み当日にまだ確定しない可能性がありますが、経済学部生を除いてこれらの科目の授業曜時限が「アカデミック・ライティング演習 1」と重なる可能性はありません。

2023 年度アカデミック・ライティング科目履修 よくある質問

「アカデミック・ライティングの基礎」と「アカデミック・ライティング演習 1」の履修に関して分からない点があったら、まず以下の FAQ を確認してください。なお詳しい説明と最新の情報は、ウェブページ「【アカデミック・ライティング科目】履修申込の方法と履修相談（2023）」（前々ページに QR コード）で確認できます。

A. 履修と手続きについて

- 初回授業前に履修のための手続きは必要ですか？
 - 「基礎」は ☞履修登録期間、初回授業前日までに**仮登録**すること。多数の場合抽選。仮登録以降の手順については第一週授業でも説明する
 - 「演習 1」は ☞**春学期・秋学期の開講クラスとも**、新年度開始の時点で履修を申し込むこと。新入生の事前申し込みは、4月1日（土）9:00～4月4日（火）17:00 のあいだ受け付ける。多数の場合抽選。
- どの曜時限を選べばいいのでしょうか？
 - 必修科目など所属学科が履修を求める科目と重ならないよう、各自時間割を確認する
 - 開講クラス数の多い曜時限（コマ）ほど当籤しやすい傾向も参考にすること
- 自分の時間割（必修科目）はどこで分かるのでしょうか？
 - 「Port Hepburn」の時間割で各自確認する（同じ必修科目でも履修者ごとに曜時限が異なることがある）
- 『明治学院共通科目ガイダンス ハンドブック』の要注意時限リストでは「▲」の曜時限に、「Port Hepburn」の時間割では授業が入っていません。この曜時限に「演習 1」（または「基礎」）を履修できますか？
 - 必修科目や選択必修科目では、複数の開講曜時限の中から、学籍番号などにより一つを割り当てられる場合も多く、「▲」「△」の曜時限に学科の必修科目・選択必修科目などが入っていない学生もいる。各自の「Port Hepburn」上の時間割に授業が入っていなければ、ほかの科目を履修することができる
- 「基礎」と「演習 1」のどちらを履修すればいいのでしょうか？
 - 書くスキルの習得にじっくり取り組みたいければ、「基礎」→「演習 1」と両方履修することをすすめる
 「基礎」☞ 入門的内容で、レポート課題はないが、毎回小テストがある（通常定員 75 名）
 「演習 1」☞ 学期中 6～7 回ほどレポートを執筆し、添削によりスキルがよく身につく（定員 15 名）
- どの学期に履修すればいいのでしょうか？
 - 「基礎」も履修するなら、「演習 1」は「基礎」を履修する学期の翌学期以降履修する（「演習 1」と同学期や、「演習 1」の履修後に、「基礎」は履修できない）
 - 春学期の「基礎」は高倍率となりやすい傾向も参考にできる（とりあえず 1 年次に「演習 1」を履修しないなら、秋学期の「基礎」がねらい目になる）

【参考】上手な履修の例

学期	例 A	例 B	例 C	例 D	例 E
1 年春	基礎	基礎	↓	演習	↓
1 年秋	演習	↓	基礎		基礎
2 年春		演習	演習		

- 担当の先生を選ぶことはできますか？

- できない

- 内容的に自分の所属する学科の科目と重複しませんか？

- 学科により「アカデミックリテラシー」「基礎演習」などでライティング指導がある

（ただしレポート・ライティングに特化するの、いまのところ「基礎」と「演習 1」のみ）

9. 卒業単位にカウントされますか？
- ・選択科目（所要単位数は学科ごとに指定される）としてカウントされる（「基礎」と「演習1」はすべての学生が履修できる「明治学院共通科目」）
10. 留学生は「基礎」および「演習1」を履修できますか？
- ・第二言語としての日本語能力の向上を必要とする学生は、留学生向けの「基礎」「演習1」（特に正規留学生に最適）を履修すること（くわしくはQRコードからアクセスするwebページで確認すること）
11. 指定されたURLから「演習1」の「事前申込フォーム」に辿りつけませんが、どうしたらよいですか？
- ・一度ブラウザを再起動し、「事前申込フォーム」が表示されるまで何度か更新を試みる

B. 授業形態について

12. 毎回教室での対面式となりますか？
- ・「基礎」「演習1」ともに対面で実施する
13. 大学全体が遠隔授業に、あるいはその後対面授業に転換するばあい、この科目の形態はどうなりますか？
- ・大学全体の方針にそって機動的に対面にも遠隔にも転換でき、到達点にも違いはない
14. オンライン遠隔授業となった場合、自分の好きな時間に（オンデマンドで）授業を受けられますか？
- ・「基礎」「演習1」ともオンデマンドとはならない。授業時限内に取り組む課題、授業終了後短時間で提出期限となる課題があり、遠隔授業の場合も毎週かならず開講曜時限に授業を受けなければならない
15. 「基礎」の小テストは、オンライン遠隔授業となったばあいでも実施しますか？
- ・「基礎」の小テストは対面/遠隔を問わず、オンライン学習管理システムmanabaにより実施する。ただし遠隔実施となったばあい不正行為防止のため、解答する間ビデオオンでのzoom接続を義務づけ、問題と正解を示しての解説は割愛する（これに代わる自習手段を提供する）
16. 教室に自分の情報機器を持参する必要がありますか？
- ・「基礎」では小テストや作業課題にとり組むさい、「演習1」でも作業課題で、各自が教室に持参する情報機器で学習管理ツールの「manaba」を操作する。なおパーソナルコンピュータまたはキーボードつきタブレットの使用が望ましい（スマートフォンでは閲覧・入力などで不利となる可能性がある）

C. 授業に関する不安について

17. 作文が苦手で、レポートも書いたことがありませんが、授業についていけますか？
- ・高校までの作文の経験に左右される部分は少ないので、はやく確実にスキルを身につけたいばあいは「演習1」の履修が望ましい。それでも自信がなければ、とりあえず「基礎」の履修をすすめる。
18. 対人関係が苦手ですが、「演習1」のばあい、ペアワークなどで困らないでしょうか？
- ・チャレンジしてほしいところだが、個々の相談には担当教員が応じる。
19. アルバイト（またはサークル、家業）で多忙ですが、課題の多い「演習1」の授業についていけますか？
- ・予復習に毎週平均2~6時間ほど必要となる（月曜授業では金曜、木曜授業では月曜の課題提出が多い）
20. 健康上の困難があるのですが、授業についていけますか？
- ・上の質問の回答を参考に判断すること（健康、障がい、心理的問題などについての専門的な支援が必要なばあい、積極的に総合支援室に相談することをすすめる）

以上

5. 「ボランティア・市民活動実習プログラム」の履修について

- 「ボランティア・市民活動実習プログラム」は、1年間を1サイクルとする科目です。ボランティア・市民活動を教室だけでなく、国内各地のボランティア・市民活動の現地で実践的に学ぶことを核とする科目群から成り立っています（※科目の概要については「明治学院共通科目ガイドブック」、および各授業のシラバスを参照ください）。

担当	2023 春学期	2023 夏休み	2023 秋学期
猪瀬浩平先生 長谷部美佳先生	ボランティア・市民活動論（国内）1A	ボランティア・市民活動実習（国内）	ボランティア・市民活動論（国内）1B

- このプログラムに参加したいと考えているみなさんは、春学期に開講される「ボランティア・市民活動論（国内）1A」をまず履修します。これは、ボランティア実習を行うための事前準備の授業です。この授業では、①環境保全（猪瀬浩平先生クラス）、多文化共生（長谷部美佳先生クラス）に取り組む市民活動の理解を深めるための基礎知識を学びます。②グループワークを通じて、それぞれのテーマに潜む社会課題をさぐるとともに、ボランティア・市民活動実習の事前学習を行います。

机に座って聞いているのではなく、ディスカッション・発表・調査・交渉などを行うアクティブラーニング形式の授業です。

- 「ボランティア・市民活動実習（国内）」は、主に夏休みを中心に、春学期や秋学期の休日を利用して市民活動の現場を訪問し、活動にも参加します。毎回記録を作成し、感想を授業内でシェアすることで、理解を深めていきます。

- 「ボランティア・市民活動論（国内）1B」は、ボランティア・市民活動実習プログラムの締めくくりとなります。実習の成果を大学の学びとしてさらに深めていくため、教員や他の履修者とのディスカッション、文献講読、追加調査などを行います。最終的に、プログラムの成果を報告書にまとめます。

《履修の申し込み方法》

- 「ボランティア・市民活動実習プログラム」は、猪瀬浩平先生クラス（春学期・秋学期ともに金曜4限）と、長谷部美佳先生クラス（春学期・秋学期とも木曜2限）の2クラス開講されます。
- 履修を希望する教員の「ボランティア・市民活動論（国内）1A」に仮登録し、manaba上で提示された課題（作文）に取り組んでください。

課題の提出締切：猪瀬浩平先生クラス：4月7日（金）18時まで

長谷部美佳先生クラス：4月6日（木）15時まで

提出された課題をもとに履修者を選抜します。なお、選抜結果は4月8日（土）18時に「ポートヘボン」で告知します。

- 初回授業時間（猪瀬浩平先生クラス：4月7日（金）4限、長谷部美佳先生クラス：4月6日（木）2限）には、履修を希望する人は必ず参加してください。授業についてのガイダンスをおこなうとともに、学生からの質問を受け付けます。実際、ガイダンスを聞いたうえで、履修するかどうかを判断してください。

- 各クラスの授業内容について質問がある場合は、以下のアドレスまでご連絡ください。

猪瀬浩平先生クラス : coppe@gen.meijigakuin.ac.jp

長谷部美佳先生クラス : mikahase@gen.meijigakuin.ac.jp

- 履修相談（4月4日・横浜キャンパス・対面）でもこのプログラムの相談を受け付けますので、ご活用ください。

《履修の注意点》

- 「ボランティア・市民活動論（国内）1A」で履修が認められた場合は、「ボランティア・市民活動実習（国内）」、「ボランティア・市民活動論（国内）1B」も履修することになります。初回授業に参加する前に、秋学期も履修可能であること、必修科目と曜時限が重複していないことを確認してください。これら3つの科目について、最終的な履修登録は選抜結果を踏まえて、教務課が行います。みなさんが自分で履修登録することはできません。また、一旦履修登録をされると、担当教員の許可なしにはキャンセルをすることができませんので、注意してください。

6. 秋学期の「基督教の基礎B」の履修について

「基督教の基礎」は、春学期（A）と秋学期（B）それぞれ2単位、年間を通じて4単位分を履修する全学必修科目です。現時点で春学期（A）も秋学期（B）も担当教員・曜時限が決められていますが、秋学期については、春学期とは異なる視点から「聖書」や「基督教の歴史・文化」を学びたいなどの積極的な理由があれば、春学期とは異なる教員が担当する授業に変更することも可能です。ただし、他の必修科目との重複がないことが条件となります。秋学期に春学期とは異なる教員の授業を履修する場合の具体的な方法については、春学期の教員からの説明や教務課の掲示をよく確認し、間違っても履修漏れがないように注意してください。

7. 「AI・データサイエンス系科目群」の履修について

(1) 授業の構成・開講科目

本学では、AI時代の新たな基礎知識を教授するAIおよびデータサイエンスに関する明治学院共通科目を今年度より順次開講します。

このプログラムは、初歩から応用まで3段階のステップで構成されています。レベル1では、社会におけるデータ・AI利活用の状況やデータリテラシーの基礎、データ・AI利活用における留意事項などを学び、レベル2では、プログラミング言語Python（パイソン）やAIによる機械学習などを学びます。そしてレベル3では、AI・データサイエンスに関する知識をさらに深めると同時に、課題解決型の実践的な授業PBL(Project Based Learning)にも参加できるまで、履修者の習熟度に応じて学びを深めることができるよう設計されています。

レベル1は「AI・データサイエンス入門」が開講されます。

レベル2では、「データ解析・活用入門」「プログラミング入門」「AIと人間」が開講される予定です。

レベル3では、「データ解析・活用基礎」「AI基礎」「PBL演習」が開講される予定です。

2023年度はレベル1のみの開講となりますが、来年度にレベル2、2025年度よりレベル3が順次開講予定です。社会科学系科目群の「統計学1・2」はレベル2に相当する科目です。2023年度から履修が可能な明治学院共通科目ですので、関心のある学生は履修を検討してください。また、所定の単位を修得すると修了認定書が発行されます。レベル2の修了要件を満たすと修了認定証「ベーシック」が取得でき、レベル3の修了要件を満たすと、修了認定証「スタンダード」が取得できます。

なお、各学科で開講される科目の単位を修得することで、本プログラムの科目の単位を修得したとみなす場合があります。修了認定証の取得を目指す場合は、各学科の「みなし科目」に注意して履修計画をたてるようにしてください。みなし科目や詳しい修了要件などについては今後Webページに情報が掲載される予定です。

(2) 「AI・データサイエンス入門」について

本科目は、AI・データサイエンスに関して初めて学習する学生向けの授業であり、AI・データサイエンスの黎明期から現在の到達点までを概観し、現代社会における重要性と可能性を理解することを目標とします。全学科の1年次生から履修可能であり、特定の時間割の設定がされないフルオンデマンドの授業となります。また、「AI・データサイエンス入門」の単位を修得しないと、「統計学1・2」以外のレベル2以降のAI・データサイエンス系科目の履修が認められないため、修了認定証の取得を目指す場合には、計画的な履修を心がけてください。

詳しい授業内容についてはシラバスを確認してください。また、AI・データサイエンス系科目群の詳細についてはWebページを適宜参照してください。

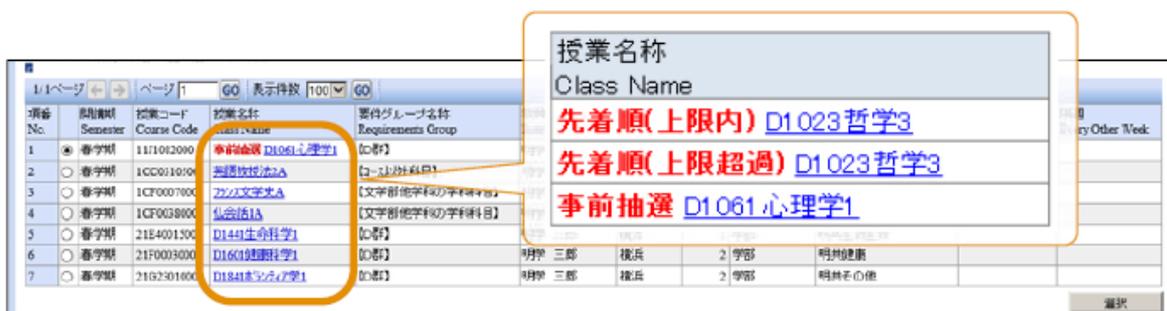
8. 時間割作成の手順について

まず、必修科目と選択必修科目の時間割を作成します。次に、それらと重複しない、空いている曜時限に選択科目を選び、入れていきます。

必修科目 → 選択必修科目 → 選択科目

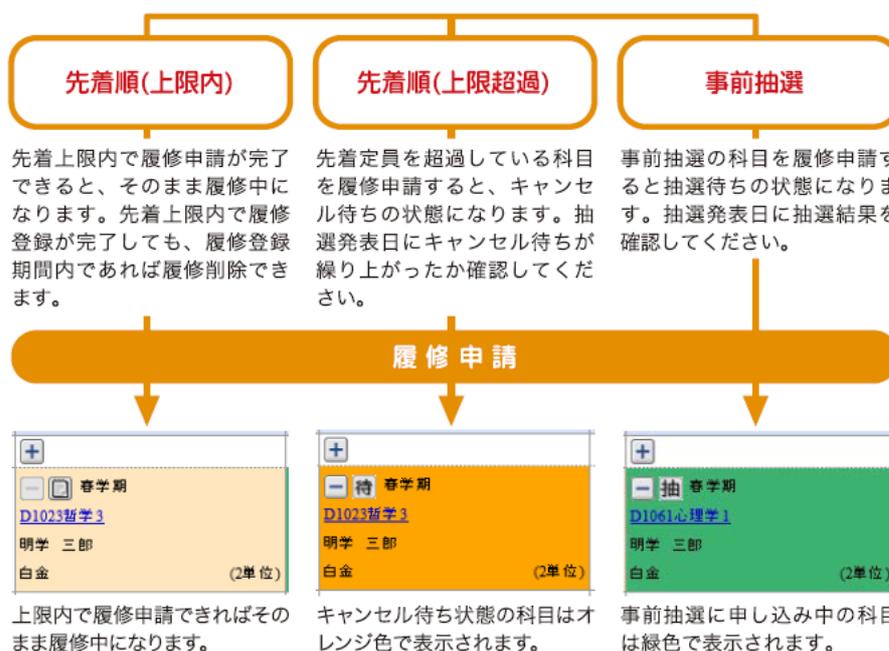
9. 明治学院共通科目の履修登録について

原則として 教務 Web 上で授業開始前から申込み形式 となります。(※ただし、一部の科目は初回授業時に履修者を決定します。教務 Web だけでなく、履修を希望する科目のシラバスの「備考」欄や、別途配付される「履修の手引き」等もよく確認してください。)



- 「先着順（上限内）」の科目： 申込みとそのまま履修登録となります。
- 「先着順（上限超過）」の科目： 申込みと、キャンセル待ちの状態となります。
- 「事前抽選」の科目： 抽選申込期間内に申込みます。締め切り後に抽選をおこなって履修者を決定します。

先着順・事前抽選科目 履修申請後の流れ



10. 時間割作成上の注意事項

- (1) 時間割作成後、年間履修上限単位数をオーバーしていないかを必ず確かめてください。
※年間履修上限単位数は学科によって異なります。
- (2) 許可制の科目で、担当教員から履修を許可された後に教務課が履修登録を行う授業については、皆さんが履修登録を行う時点では、まだ「Web履修登録画面」には反映されておらず、空欄のままとなっています。履修を許可された者は、その空欄に他の科目を入れないように注意してください。
※履修登録確認日（後日ポートヘボン等で告知します）に、正しく履修登録されているかを必ず自分自身で確認してください。
- (3) 初回授業に必ず出席し、履修登録した（あるいは履修を希望する）科目と担当教員が正しいことを確認してください。
- (4) 履修登録のミスは自己責任となるので注意してください。